

国語問題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は二十ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
3. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験番号が正しいかどうか受験票と照合し確認すること。
4. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 解答は、必ず鉛筆又はシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
6. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
8. 文字は楷書で正確に書くこと。
9. 解答用紙は持ちかえらないこと。
10. この問題用紙は必ず持ちかえること。
11. 試験時間は六〇分である。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	

(一) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

ある法が議会できちんとした手続きで定められたとしても、「これは正義に反する悪法だ！」といったくなる場合があるかもしれない。そもそも法や政策の正当性を決めるものは何だろうか。それは「多数決」という手続きによる、としかいえないのだろうか。

社会契約とは「メンバーが対等な仲間となり、平和共存のために力を合わせよう」という約束であるから、法や政策は一部の人のみに役立つものであつてはならず、「皆が欲すること」、つまりメンバーすべての共存と共栄のために役立つものでなくてはならないことになる。だからルソーは、法の正当性はそれが人民の「一般意志」だれもが欲することであるかどうかによつて決まる、と述べた『社会契約論』。

人々はある法案が「一般意志」といえるかどうかを人民集会でもつて議論するが、しかし最終的に決議するさいには「多数決」を用いるしかない、とルソーはいう(ちなみに彼は、決定方式として多数決を用いることを、一度だけは全員一致で決めておかねばならない、ともいつている)。

a 多数決は決定方式なのであつて、多数が法の正当性の本質なのではない。あくまでも、メンバー全員の「一般意志」であるかどうか法の本質なのである。もし多数に正当性の根拠があるとすれば、人口八割のA民族が結託して、人口二割のB民族から倍額の税金を取るといふ法案を通してしまった場合でも、それは正当だといふことになる。

ところで、このルソーの「一般意志」の考え方は、「議会では全員の利益となるかどうかをよく考えて法を決めていくべきだ」ということだから、一見すると、きわめて理想主義的で非現実的に感じられるかもしれない。しかしルソーにはきわめて現実的な見方があつた。――もし先の「税金倍額法」のように、一部の人々だけを利する法や政策が強引に押し通され実行されるならば、そもそもその社会契約、つまり「自分たちは仲間として力を合わせて平和共存していこう」というメンバーシップの感覚じたいが弱体化し国家の分裂につながる、とルソーは繰り返して語っている。その逆に、メンバーの共通利益が法や政策となつてきちんと実

行されていくならば、メンバーシップの感覚はさらに強化されていくだろう。つまり、「自分たちの社会を、自分たちはより公正で住みやすいものにしていける」という（共同的主体）の感覚がより生き生きとしてくるはずである。

では、メンバーの共通利益が法や政策として実現されていくためには、どのような条件が必要だろうか？ これは民主主義にとつての根本問題だが、とくに重要なのは、それぞれのメンバーが自分の利害や意見を充分に出しあえることと、そうすることによる相互理解の進展である。

b、近代以降の社会は、さまざまな異なった立場の人たちが共存する社会であるからだ。そのような社会では、立場のちがう人々がそれぞれに自分たちの利害を口に出せること、そしてそれが社会の他の人々によって聴き取られる、という条件が重要になってくる。互いの異なった態度や意見を聴きあうなかで、最終的に「どういうことが本当に共通利益といえるのか」ということが（もし痛みを被る人々がいるならどのように補償するのが適切なのか、ということも含めて）共通に了解されてくるといふプロセスが、民主主義的な意志決定のカナメなのだ。

これに対して、「今後の民主主義においては、ネット上に溢れるさまざまなデータを集積し、そこから人々の無意識の感覚を取り出すことが必要だ」という意見もある（東浩紀『一般意志2・0』）。これは集積されたデータを政策決定の参考にせよという趣旨ならば有意義な提案といえるが、しかし、集積されたデータには X という肝心のプロセスが抜けているので、これはそのままでは（一般意志）たりえない。民主主義において大切なのは、（一般意志）を「生成」するプロセスなのである。

しかしこの、多様な利害を出しあい聴きあうなかで「共通利益」を取り出していくという経験を、私たち日本社会に生きる人たちは実生活のなかであまりもたず、そのやり方に慣れていない。いちばんの問題はその点にあると思う。

2 教育も大切だが、一つの方向として、地方自治の活性化が有効かもしれない。たとえば、東京都八王子市では、小田野中央公園という公園の整備について、住民が語りあい役所と共同しつつ好ましい形を実現していった事例がある（羽貝正美「安寧のまちづくり——自治と参加の視点から『安寧の都市研究』第2号、二〇一一年）。地方自治から国政レベルに至るまで、（一般意志）を取り出す経験と工夫とを蓄積していくことが可能だと考える。

さて、正義の根底にあるものはメンバーの（共存への意志）であった。そして近代的な正義のポイントは、「人権」の尊重（個人の自由意志を認めて犯さないようにする）であり、それは当然「対等・公正さ」への要求（身分、宗教、貧富等々にかかわらず、すべての人間が対等な存在として扱われるべき）とつながってくる。さらに、民主主義の核心がメンバーの「共通利害」（一般意志）を取り出して法や政策を定め実行していく点にあることも確認してきた。

さてそのうえで、近代社会における正義の問題の焦点となってきたこと、つまり「経済的な格差」の問題について考えてみよう。市場経済の進展は貧富の格差を生み出し、その格差は固定化されやすい。たとえば貧しい階層の人たちの子どもはきちんとした教育を受けられずその階層から出られない、というようなことが起こってくる。

これを先鋭に主張したのがマルクス主義（社会主義）であった。法律上は対等なはずの労働者と資本家の関係は、実際にはまったく対等ではなく正義に反する。c、格差を生み出す市場経済そのものをストップして計画経済にすべきだ、とマルクス主義者は主張した。（しかし現実の社会主義国においては、個々人の自由な営業が禁じられただけでなく、言論の自由や政治的な行動の自由も厳しく制限された。一定の政治的・経済的な方針を貫くために人々の意志を強力に統一する必要があったからだろう。）

アメリカの正義をめぐる議論は、政治哲学者ジョン・ロールズが一九七一年に『正義論』を書いたことから始まるが、そのさい彼はもちろん「自由を権利として保証するだけでは正義に値しない」という社会主義からの問題提起を受けとめている。そして彼は、個々人の自由を正義において最重要な原理としながらも、同時に機会の対等（機会均等）とYとが正義として必要であると主張した。

貧しい家に生まれた人にも勉学のチャンスが与えられることで、社会的な活躍の機会がすべてのメンバーに開かれるようになるよう、という理念が「教育の機会均等」と呼ばれる。なぜこれが正義とされなくてはならないか、というと、ぼくの考えでは、それが自由な活動を行うための前提条件だからである。

人は自分に責任のないハンディを背負うことがある(貧困な家に生まれたり・病気になったり)。そうした場合に対応すべく、社会のメンバー一人ひとりが自由に職業を選び活動していくための基本的な条件(自由の条件)についてはそれを公的に整備しよう、という考えが必ず生まれ出てくるが、これにもとづいて、さまざまな社会保障や医療保険のような政策が行われているといえる。

では、そのためにどの程度の税金を用いればよいか、という点になると、人によって感度のちがいがあっても、「自由の条件を公的に整備しておくべきだ」という理念については、ほとんどの読者の方が賛成するだろうと思う。

d

アメリカ

リバータリアンと呼ばれる人たちは、個々人の自ら獲得した所有を守ることこそが唯一の正義であり、所得再配分は盗みであると主張する。政府はそれだけに専念する最小国家であるべきだ、ともいう。この説をどう考えればよいだろうか。

この主張は、自由を絶対的な正義とみなすものだが、これは正義の本質から考えれば、おかしなものである。なぜなら正義の根拠はメンバーの(共存の意志)にあるのであって、あらゆる法律や権利は、この(共存の意志)によって支えられることで正当なものとして認められているからだ。自由の権利も神が定めた絶対の正義などではなく、(平和共存しようとする共同意志)がそれを認め尊重しているからこそ正義として成り立っているのである。

もちろん、自由の範囲をなるべく広げようということとは近代社会の基本的な合意だが、その範囲は絶対なものではない。「メンバーのよりよき共存にとってふさわしい自由の範囲はどこまでか」ということが当然考慮され議論されなくてはならないのであって、だから、自由の範囲は人々の合意によってある程度、動くことになる(たとえば家庭から出る騒音をどの程度許容するのが適切か、については時代によって変わるだろう)。

個人の所得についても、どこまでがその人の私有となり、どこからは税金となるかの割合が、あらかじめ決まっているわけではない。「税金を出しあって自治体や国家の公共事業を推し進める原資としよう」ということだけは(社会契約)に含まれていて

も、それをどの程度にするかは決まっていはいない。北欧の国々のように、人々が高福祉・高負担を選択するならば、それももちろん可能なのである。

そもそもリバタリアンの主張が生まれたのは、大きくいって二つの理由からである。①「高度な福祉社会は高度な管理社会となつて個々人の自由を侵すので、政府の権限はなるべく縮小されるべきだ」という主張(哲学者ノージック)と、②「政府が市場に介入するよりも、市場じたいにまかせたほうが結局は経済はよくなり発展する。『大きな政府』は負債をどんどん増やすだけだ」という主張(経済学者フリードマン)とである。

しかしいま、アメリカでリバタリアンの主張をする富裕層の本音は、Z ということかもしれない。黒人問題の研究者である藤永康政さんから聞いた話だが、彼ら富裕層は、ヒスパニックや黒人の貧困層のことを「あんな連中 those people」と呼ぶらしい。「なんであんな連中に自分たちが稼いだものを渡さなくちゃいけないんだ？」という感覚、つまり、連帯の拒否がそこにあるというのである。多民族からなるアメリカのなかには、連帯しつつ公正な社会をつくろうとする動きもあれば、それを拒否しようとする動きもある、ということなのだろう。

正義は(共存の意志)から生まれるのだった。その正義の核心を、相互理解を進めることによつて、より公正な条件を社会に育てていこうとする努力と呼んでみたい。そういう努力がもしこの社会から消えてしまうならば、社会はますます弱肉強食の荒野のようなものになる。そうならないためのさまざまな努力が、日本社会においても必要とされているし、e あちこちで確実になされているとぼくは感じている。

(西研『哲学の練習問題』による)

問1 空欄 a、e に入る語の組合せとして最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- |   |       |        |       |        |        |
|---|-------|--------|-------|--------|--------|
| ① | a つまり | b なぜなら | c しかし | d また   | e だから  |
| ② | a つまり | b だから  | c また  | d しかし  | e なぜなら |
| ③ | a つまり | b なぜなら | c だから | d しかし  | e また   |
| ④ | a だから | b つまり  | c しかし | d また   | e なぜなら |
| ⑤ | a だから | b つまり  | c また  | d なぜなら | e しかし  |

問2 傍線1「ルソーにはきわめて現実的な見方があった」とあるが、(一般意志)の考え方はなぜ現実的に有効だといえるのか。

「国家の分裂につながるから。」で終わるように、本文中の言葉を用いて五〇字以内で述べよ。(句読点も字数に含む)

問3 空欄Xに入る最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 情報を発信する主体の責任を相互に確かめあう
- ② 異なった利害や意見を相互に理解しあう
- ③ 情報の信憑性を相互に検証しあう
- ④ 異なった観点から意見を相互に出しあう
- ⑤ 多数決によるかどうかを相互に議論しあう

問4 傍線2「教育」とあるが、子供の教育のためにはよい環境を選ばなければならないということの意味する、「□□□□の教え」という故事成語がある。空欄に入る漢字四字を記せ。

問5 空欄Yに入る最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 言論活動の自由化
- ② 市場経済の進展
- ③ 地方自治の活性化
- ④ 経済的格差の減少
- ⑤ 計画経済への移行

問6 空欄Zに入る最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① メンバーシップの忌避
- ② 駄駄っ子の開き直り
- ③ 社会的責任の放棄
- ④ 勝者の自己陶醉
- ⑤ 政治への不信

問7 本文には、次の一文がある段落の末尾から脱落している。どこに入るのが最も適切か。入るべき箇所の直前の五字を記せ。(句読点も字数を含む)

【脱落文】 これは正義、とくに「対等・公正さ」に反するのではないか、という問題である。



問 8 本文の内容と最も合致するものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 高度な福祉社会は高度な管理社会ともなりうるので、正義に適う「共存の意志」の理念に原理的に抵触する。
- ② リバタリアンの主張を先鋭に推進すると、少数の人々しか生き残れない過酷な競争社会が到来することになる。
- ③ 民主主義にとって重要なのは、住民同士が語り合い知恵を出し合って地方自治を活性化するような堅実な実践である。
- ④ 民主主義社会における法や政策の正当性は、集団的な意志をもつとも端的に反映する多数決によって保証される。
- ⑤ 教育を受ける機会が等しく与えられる必要があるのは、個人が自由を実現するための基本的な条件だからである。

(二)

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

そのひとは初対面だったが、これまでにそのひとがどんなに秀れた仕事<sup>すく</sup>をなし遂げていたかを、わたしは知っていた。すでに高齢になったそのひとと、とおりにいっぺんのあいさつや世間話をしながら、わたしはあせっていた。このひとからあのときのことや、このときのことを、訊きださなくては。あの本を書いたとき、あなたは何歳で、何を考えて、何をしていたのか……、あの事件が起きたとき、あなたは何を感じたのか……。

歴史の生き証人を前にして、わたしの気持ちははやっていったのに、話はいつこうに核心に入っていけない。とりとめもなく時間が過ぎて、やがて辞去する時刻が来た。

う、うむ。なんとも思えない時間を……と思ったわたしの目の前に、おだやかな笑みをたたえて、ものごしのやわらかいそのひとは佇んでいた。

X

このひとが過去に何をしてきたかは、問題ではない。あまたの事件や出来事をのりこえて、いま・ここに、品のよい老婦人がいる。そのひとのねばりのあるゆつくりした話し方、目尻の笑いじわ、少し悲哀を含んだ笑顔、おだやかだが時に辛辣<sup>①</sup>なものい……過去の生き方や姿勢が、そのままそのひとのふるまいに滲<sup>②</sup>んでいると思うと、そのひとと過ごした数時間を、気持ちばかりはやって、ありのままに堪能しなかったことが、かえって口惜しく、もつたいないことに思われてきた。

時間と経験が、このひとの「いま」を創ってきた。だとしたら、わたしがつきあうべきは、このひとの「過去」とではなく、このひとの「現在」とでなければならぬ……。

過去に有名だったべつのあるひとと、初めて遭ったときもそうだった。とあるパーティ会場で、大きな柱の陰に、小柄な女性が肩の力を抜いて佇んでいた。一時はスキャンダルでメディアを賑わせたこともあるそのひとの容貌を、わたしは写真で知っていた。だが、わたしから数メートルと離れていないところに立っているそのひとは、気配を消した静謐<sup>③</sup>さで、周囲の喧噪をよそ

に、超然としていた。あのエネルギーシユな人生を送ったひとが、こんなふうに変わったのか……わたしは彼女の経てきた人生の波乱のあれこれを思い起こして、その脂の脱けたさりげない佇まいに、好感を持った。そのひとの経てきた容易でない時間がいまのこのひとを創ってきたのかと、目の前のそのひとのおだやかな風貌に、あらためて見入った。

そう思っていたら、エイジズム(高齢者差別)を告発するフェミニスト、バーバラ・マクドナルドのせりふが思いだされた。彼女は七十歳近くになって、こう言ったのだ。

「年老いた女性に、あなたはほかの年寄りと違って元気だし生き生きしていると言うことが、ホめことばだ④①と思っ

④  
てはいけません。もしその女性がそれをホめことばとして受けとったとしたら、あなたは年老いた女性を拒否することに手を貸したことになります。」

年老いた女性にお年よりもずっとお若いですねと言っ

てはいけません。それはあなた方の思い上がりであるばかりか、年齢を感じさせることをけなすことにつながります。

年老いた女性はあなた方若い女性のために存在しているわけではありません。またあなた方が私たちの役に立つと思っ

てもいけません。

年老いた女性が昔から歳をとっていたと思っ

てはいけません。七十歳、八十歳、九十歳がどんなものか、新しく発見する過程にあるのです。年老いた女性がこの経験について語れば語るほど、私たちを否定する社会に住む私

たちは、それがどんなに革命的なことか、わかってきます。」

この銀髪の小柄な女性は、アメリカのフェミニストの集まりで、こんな激烈なスピーチをした。そのなかに三十代のわたしもいた。わたしはそれに感激して、初対面の彼女に近づき、あなたのスピーチを日本に紹介させてもらえないかと申し出た。それがあとで翻訳書になったのが、『私の目を見て——レズビアンが語るエイジズム』(シンシア・リッチとの共著、寺澤恵美子ほか共訳、原柳舎、一九九四年)である。

彼女はこんなことも書いている。

「若い女たちは、あなたがどんなふう生きてきたかを聞かせてくださいと、年老いた女のもとへライフストーリーのインタビューにやってくる。だれもわたし日々何を感じ、何をして生きていくかを訊こうとしない。そう、彼女たちは、わたしの『現在』ではなく、わたしの『過去』にしか関心を払わない。わたしは『過去の人』ではなく、こうして日々を過ごしている、ただ年齢だけの女だというのに。高齢者は過去の抜けガラ<sup>⑤</sup>ではない。それどころか、だれも経験したことのない、年齢という日々にあたらしい現実を探検している最中だというのに。」

わたしがおつきあいしていただいている高齢者のコミュニティでは、自己紹介のときに、過去の職業や経歴を言わないし、聞かないという不文律がある。どのひともすでに現役を退いているひとたちだ。「娑婆<sup>しやば</sup>ではどんなご身分かは存じませんが……」、ここでは無名の者どうし、お互いさまだ。

その代わり、自己紹介代わりに、いまうちこんでいる趣味を言う。「油絵を描いています」「しろうとオペラのサークルに入っ  
て、年に一回の公演が楽しみで……」<sup>⑥</sup>「トウゲイをやりたくてこの地に来ました」。

だが、つきあっているうちに、そのひとの趣味や特技がなんであるかすら、どうでもよくなってくる。

「ウエノさんね、それって、大文字の趣味っていうんですよ。ほんとに大事なことはそのひとが何をしているかではないんです」とわたしに教えてくれた年長の友人がいる。そのことばが、身に沁みるようになってきた。

何をするか、ではなく、だれであるか。それも肩書きや地位では測れない、そのひとのありよう、ふるまい、口のきき方や身のこなし方……つまるところ、そのひとの Y が、そのひとについてのいちばん大切な情報だと思ふようになった。そして一緒にいたいと思わせるのはそういう Y の上等なひとだし、また会って時間を共にしたいと思うのも、そういう気持ちのよいひとたちだ。

他人を見るとき……わたしたちは、そのひとが過去に何をしてきたかを基準に、あの〇〇さん、と思いがちだ。わたし自身もしばしば、あのウエノさん、という目で見られることが多い。だが、ひとがつきあうのは、そのひとの過去とではなく現在と、そしてそのひとの仕事とではなくそのひとの人柄とである。どんなにすぐれた業績をあげたひとだろうが、一緒にいて無神経な

ひとつと、食卓を共にしたくない。かつての地位も業績も、いま・ここでの無礼さや傲慢さを免罪しない。

そのひとつの Y から、そのひとつが過去にくぐりぬけてきた修羅場や苦悩の数々を推しはかる。詳しくは聞かなくとも、あれやこれやがあつて、そのひとつの「いま」があるのだと、感じられる。そしてふと、そのさなかにめぐり遭わないでよかった、と感慨がよぎる。経験と時間とでなめされ、よく使いこまれた手帖の革表紙のように鈍い光沢を帯びて、そのひとつが目の前にいる。わたしはただ、それをじゅうぶんに享受しさえすればよい。

なんとという贅沢だろう。

(上野千鶴子『ひとりの午後』による)

問1 傍線①、②、③の漢字の読み方を、それぞれひらがなで記せ。

問2 傍線④、⑤、⑥のカタカナを、それぞれ漢字に直せ。(大きく明瞭に書くこと。)

問3 傍線1「そのひとつとは初対面だった」とあるが、一生に一度しかない出会い、一生に一度限りの出会いのことを漢字四字で記せ。

問4 空欄Xに入る最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① そのとき、わたしは疑問を持ったのだ。
- ② そのとき、わたしは悟ったのだ。
- ③ そのとき、わたしは驚いたのだ。
- ④ そのとき、わたしは怒りを感じたのだ。
- ⑤ そのとき、わたしは笑いを感じたのだ。

問5 傍線2「七十歳、八十歳、九十歳」とあるが、それぞれの数え年のことを何というか。最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 七十歳(米寿)、八十歳(古希)、九十歳(白寿)
- ② 七十歳(古希)、八十歳(卒寿)、九十歳(傘寿)
- ③ 七十歳(米寿)、八十歳(白寿)、九十歳(古希)
- ④ 七十歳(古希)、八十歳(傘寿)、九十歳(卒寿)
- ⑤ 七十歳(白寿)、八十歳(古希)、九十歳(傘寿)

問6 空欄Yに入る最も適切な三字の表現を本文中から探し、そのまま抜き出せ。

問7

本文の内容と最も合致するものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① お年寄りとは過去の抜けガラではなく、また過去に生きていくわけでもなく、日々経験したことのない新しい現実を生きていることを考えれば、過去の職業や肩書きを聞くのは大変失礼なことになるので、聞かない方がよい。
- ② お年寄りになると、過去の生き方が現在の態度や振る舞いになって現れることが多いのであるが、そのことは逆に考えれば現在の姿を見ることにより、その人の過去の生き方を想像することができることを意味している。
- ③ お年寄りに対して過去に何をしてきたかという点で考えていたが、ある時からそうではなくそのような過去の生き方が現在のその人を形作っているのだと考えるようになり、現在のその人に寄り添って考えるのが良いと思うようになった。
- ④ 年をとってから他人に判断される際に大切なことは、その人のふるまいや身のこなし方などの人柄中心になってくるので、その人の過去の地位や業績や何をしてきたかなどということは、一般的にあまり重要視されなくなってくる。
- ⑤ 若い女性が年老いた女性に対して、他の年老いた女性よりも髪も黒く肌つやもよくお若いですネなどということは、エイジズムの最も深刻な事例であるので、なるべく容貌や姿などの話をしないようにしなければならない。

(三)

次の文は、『和泉式部日記』の一節である。宮は女(和泉式部)の家を訪ねようと思いつつ、諸事情から行くことができない。そのうちに、二人の関係は疎遠になってしまった。以下は、宮がようやく女のもとを訪れる場面である。この文章を読んで、後の問に答えよ。

からうじておはしまして、<sup>1</sup>「あさましく心よりほかにおぼつかなくなりぬるを、おろかになおほしそ。御あやまちとなむ思ふ。かく参り来ることびんあしと思ふ人々、あまたあるやうに聞けば、いとほしくなむ。大方もつつましきうちに、いとどほどへぬる」とまめやかに御物語したまひて、「いざたまへ、今宵ばかり。<sup>X</sup>人も見ぬ所あり。心のどかにもものなども聞こえむ」とて車をさし寄せて、ただ乗せに乘せたまへば、われにもあらで乗りぬ。人もこそ聞けと思ふ思ふ行けば、いたう夜ふけにければ、知る人もなし。<sup>2</sup>やをら人もなき廊<sup>＊</sup>にさし寄せて、下りさせたまひぬ。月もいと明<sup>か</sup>ければ、「下りね」としひてのたまへば、あさましきやうにて下りぬ。「さりや。<sup>Y</sup>人もなき所ぞかし。今よりはかやうにてを聞こえむ。<sup>3</sup>人などのある折<sup>せき</sup>にやと思へば、つつましう」など物語あはれにしたまひて、明けぬれば、車寄せて乗せたまひて、「御送りにも参るべけれど、明かくなりぬべければ、ほかにありと人の見むもあいなくなむ」とて、とどまらせたまひぬ。

女、道すがら、「あやしの歩<sup>ありき</sup>や。人いかに思はむ」と思ふ。あけぼのの御姿の、<sup>4</sup>なべてならず見えつるも、思ひ出でられて、

「宵<sup>よ</sup>ごとに 帰しはずとも いかでなほ あかつき起きを 君にせさせし

苦しかりけり」とあれば、

<sup>5</sup>「朝露の おくる思ひに くらぶれば ただに帰らむ 宵はまされり

さらにかかることは聞かじ。<sup>＊</sup>夜<sup>＊</sup>さは方<sup>＊</sup>ふたがりたり。御むかへに参らむ」とあり。あな見苦し、つねにはと思へども、れいの車にておはしたり。さし寄せて、「早や、早や」とあれば、さも見苦しきわざかなと思ふ思ふ、<sup>＊</sup>ゐざり出でて乗りぬれば、昨夜<sup>よべ</sup>の所にて物語したまふ。<sup>＊</sup>上<sup>＊</sup>は、院の御方にわたらせたまふとおぼす。

明けぬれば、「鳥の音<sup>ね</sup>つらき」とのたまはせて、やをら奉<sup>6</sup>りておはしぬ。道すがら、「かやうならむ折は、かならず」とのたまは



すれば、「つねはいかでか」と聞こゆ。おはしまして、帰らせたまひぬ。

(注)

\*廊……建物をつなぐ渡り廊下。渡殿。細殿。

\*夜さり……夜になったころ。

\*方ふたがりたり……相手の家の方角が忌むべき方角にあたっている。そのため、相手の家に入ることができない。

\*ゐざり出でて……膝歩きをして出でて。

\*上……宮の妻、北の方。

\*院の御方……宮の父にあたる冷泉院。

\*鳥の音つらき……「恋ひ恋ひてまれに逢ふ夜のあかつきは鳥の音つらきものにざりける」(古今和歌集)を引く。

問1 傍線1「あさましく心よりほかにおぼつかなくなりぬるを、おろかなおぼしそ」の現代語訳として最も適切なものを次の

中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 我ながらあきれられるほど思いのほかご無沙汰してしまつたが、冷淡だと思ひ下さるな。
- ② 見苦しいほどにあなたを心から思つてのぼせている私を、冷たくあしらおうと思ひ下さるな。
- ③ あきれられるほど不本意にあなたとの間が薄れてしまつたが、つまらない男だと思ひ下さるな。
- ④ 信じられないほどあなた以外が目に入らなくなつたが、つまらないことだと思ひ下さるな。
- ⑤ おどろきあきれられるほど時間がたつてしまつたが、つれない態度をとろうと思ひ下さるな。

問2 傍線2「やをら人もなき廊にさし寄せて、下りさせたまひぬ」の現代語訳として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 宮は静かに人のいない渡殿に車をさし寄せて、お降りになった。
- ② 女は突然人の姿のない渡殿に車をさし寄せて、お降りになった。
- ③ 宮はそつと人気がない渡殿に車をさし寄せて、女を降りさせた。
- ④ 女は静かに人影もない渡殿に車をさし寄せて、降りさせられた。
- ⑤ 宮は唐突に誰もいない渡殿に車をさし寄せて、お降りになった。

問3 傍線3「人などのある折にやと思へば、つつましよう」とあるが、なぜか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 女の家に行く途中、不用意に他人の目にさらされることを思うと、ためらわれたから。
- ② 自分に仕える者たちの目があつて、女のもとを訪れることができなかつたから。
- ③ 女のところには多くの男が通っているらしく、他の男と出くわしたくなかつたから。
- ④ 女のもとに行こうとしても妻の目が厳しく、なかなか外出の機会がなかつたから。
- ⑤ 手引きをしてくれる人を頼つてと思つたが、なかなか都合がつかなかつたから。

問4 傍線4「なべてならず見えつる」の現代語訳として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 常人とは異なつて怪しいものに見えたこと
- ② 光り輝くようにしてうつすら見えたこと
- ③ 並一通りでなく美しく見えたこと
- ④ いつもよりずっと華麗に見えたこと
- ⑤ 並のものではない恐ろしい姿に見えたこと

問5 傍線5「朝露の おくる思ひに くらぶれば ただに帰らむ 宵はまされり」には和歌の修辞法が二つ使用されている。それぞれを漢字二字で答えよ。

問6 傍線6「奉りて」の現代語訳として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 車にお乗りになつて
- ② 鳥をお渡し申し上げて
- ③ 食べ物を召し上がつて
- ④ 手紙をお書き申し上げて
- ⑤ 人をお呼びになつて

問7 傍線7「つねはいかでか」の下に省略されている語として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 召さむ
- ② 参らむ
- ③ おはさむ
- ④ 迎へむ
- ⑤ 侍らむ

問8 傍線X「人も見ぬ所」および傍線Y「人もなき所」を具体的に説明するものとして最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 女の家
- ② 院の家
- ③ 侍従の家
- ④ 乳母の家
- ⑤ 宮の家

問9 和泉式部と同じく、一条天皇の后である彰子に仕えた女房を次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 菅原孝標女
- ② 清少納言
- ③ 建礼門院
- ④ 紫式部
- ⑤ 藤原道綱母